

2024年10月実績概要（メモ）

（2024. 11. 21）

各誘導品類の定修や稼働要因から、生産は製品毎の増減の隔たりが大きめに出る。

1. 生産動向

イ) エチレン 414, 500トン

前月比 +6. 4% (+24, 800トン)

前年同月比 ▲7. 4% (▲32, 900トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3. 3 %	—
定修要因等	+ 7. 3 %	▲ 0. 5 %
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 4. 2 %	▲ 6. 9 %
生産増減率	+ 6. 4 %	▲ 7. 4 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月80. 2% → 当月77. 4% ← 前年同月82. 6%

定修プラント：前月 1社1プラント → 当月 1社1プラント ← 前年同月 なし

2024年1～10月累計生産量 4, 086.1千ト 前年同期比 ▲6. 5%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加に加えて、定修規模の差等から LDPE、PP、MMA モノマー、EO、EG、AN、ベンゼン、キシレンなどの12品目がプラス。塩ビモノマー、SBR、BR などの5品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、SBR、BR などの11品目がマイナス。LDPE、HDPE、EG、トルエンなどの6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増や定修規模の差から、LDPE で大幅な増加が見られたほか、PP、PS でもプラスとなった。HDPE は定修規模差と稼働率要因からマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から LDPE、HDPE はプラスとなったが、PP、PS はマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、前月に比べて収入、消費財の購入面でやや鈍化が見られ、足踏みの状態が続いている。一方、国内の生産活動全般は、9月時点で持ち直しが見られたとともに、10月も生産機械を中心とした増加見込みや、生産マインドのトレンドも上方修正の見方が多くなっている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、ユーザー側の稼働日数の増加や原料情勢の影響もあり、LDPE、HDPE、PP、PS の4樹脂で9月に続いてプラスとなった。前年比は、HDPE はプラスとなったが、PP、PS はマイナスとなった。

分野別の出荷状況では、フィルム等の包材分野は、前年比で LDPE、PP はプラス、HDPE、PS はマイナスとなった。包材以外の分野では、前年比で、HDPE の射出成形分野のほか、中空成形分野がプラス、PS も電機・工業用、FS 分野がプラスとなった。PP は射出成形分野をはじめ多くの分野で出荷が減少した。

ハ) 輸出

原油市況の一時的な上昇傾向や中国の景気刺激策への期待感があつたが、大きな増加は見られず、前月比は、HDPE、PP だけがプラス。前年比でも HDPE、PS の増加に留まった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP、PS で減少し、HDPE のみは増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE は前月並み、HDPE、PP、PS はそれぞれ低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE はやや高め、PP、PS は適正水準に向かいつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LDPE	▲ 4, 400	3. 4	3. 4
HDPE	+ 9, 400	3. 7	3. 6
P P	▲ 2, 000	3. 1	3. 0
P S	▲ 15, 300	2. 0	1. 6

以 上